

平成25年度名寄市教育改善プロジェクト委員会

名寄市内小中学校の 研究の概要



校内研修(研究)の充実に関する研究グループ

平成25年7月

1. 名寄小学校

【研究主題の設定】

かかわり合って、学びを創る子どもの育成
～「例えば」から「だったら」で創る授業～

【設定理由】

根拠をもって自分の考えを伝え合うことで、さらに学びを深めていく姿を目指していきたい。

<成果>




- 「例えば」という言葉を使って既習事項を基に見通しをもたせることで、積極的に考え、課題を解決しようとする児童の姿が見られるようになった。また、「だったら」という言葉を意識する発表により、児童が考えを論理的に整理し、課題を解決しようとする姿が見られるようになった。
- 1単位時間に必ず習熟の時間を確保し、教師が実態に合わせて問題の内容を工夫することで、児童はより理解を深め、学習を振り返るようになった。

<課題>


▲今後は、さらに自分の考えを論理的に表現できる子を育てていけるよう、言語環境を充実させ、他教科・他領域における根拠を基にした表現活動や書く場面を積極的に授業に取り入れていく。

仮説

- ①「つかむ」の段階で、既習事項を活用して課題解決していくような学習展開にすることで、自らの課題や見通しをもちながら学びに向かうことができるだろう。
- ②「広げる・深める」の段階で、根拠を明確にする話し方・聞き方の型を提示したり、考えの相違を比較できる板書にして話し合いを焦点化させたりすることで、伝え合い、考え合いながら学びを深められるだろう。
- ③「まとめる」の段階で、学習内容を確認めるような習熟問題に取り組みせ、児童による評価活動を工夫することで、自己の高まりを振り返り、達成感を感じられるだろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 23 年次 年度	学習展開の工夫 交流のしかたの工夫 学習内容を確認める場の設定 児童による評価活動の工夫 <構想と立案>	研究内容1 学習意欲を高める 手立ての工夫 ・学習展開の工夫 ・「例えば」を用いて見通しをもたせる	 既習事項を提示し見通しをもたせる。
2 24 年次 年度	学習展開の工夫 交流のしかたの工夫 学習内容を確認める場の設定 児童による評価活動の工夫 <蓄積と検証>	研究内容2 伝え合い、学びを深めていく 手立ての工夫 ・交流の仕方 「根拠だったら、結論」の形で根拠を基に考えを書き、根拠を基に自分の考えをまとめ、発言できるようにする。 ・話し合いを焦点化させる板書の工夫	 「だったら」を用いて根拠を基に自分の考えを発表する。
3 25 年次 年度 (本年度)	学習展開の工夫 交流のしかたの工夫 話し合いを焦点化させるための工夫 学習内容を確認める場の設定 <検証と発展>	研究内容3 学びの達成感を感じられる手立ての工夫 ・学習内容を確認める場の設定時間を確保して習熟問題にじっくり取り組み、本時の課題やその時間に学習したことを振り返らせる ・児童による評価活動の工夫	 算数以外の教科でも根拠をもとに課題解決に向けて話し合う授業を行った。3年1組小原学級国語「けしごむころりん」公開

2. 名寄南小学校

【研究主題の設定】		主体的に学び、考える楽しさとわかる喜びを実感する子の育成 ～算教科を窓口とした問題解決学習を通して～		
【設定理由】				
本校では、一昨年度まで4年計画で国語科の「読むこと」の指導を通して取り組んできた。				
<p><成果>○課題解決しようと意欲的になり、自分の考えを伝えることや話し合おうとする基盤ができてきた。</p> <p>○ペアやグループ交流場面での交流の仕方を工夫することで、課題に対する見方や考え方が広がり、読みを深めることができるようになった。</p>				
<p><課題>▲子どもの考えを発表させ、全体の交流場面で練り合わせていくためには、話し合う時間を確保することが必要であった。</p> <p>▲全体で練り合うための発問や板書などの工夫が不足していたため、教師が児童の多様な考えをまとめ、収束することが難しかった。</p>				
以上の成果と課題、客観的なデータをふまえ、24年度より算教科を窓口にして子どもの育ちを促し、教師の授業力向上と日常の授業改善（日常に生かせる研修）を図る研修を進めることとした。				
仮説	<p>①ねらいを明確にした課題提示や教材を工夫することで、子どもたちが主体的に学ぶことができるであろう。</p> <p>②思考するための手立てを充実することで、子どもが楽しく考えることができるであろう。</p> <p>③評価の工夫と振り返りの充実を図ることで、子どもがわかる喜びを感じることができよう。</p>			
年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例	
124 年次年度	<p>①研究主題・仮説の設定</p> <p>②模擬授業を通して研究内容のイメージを共有化</p> <p>③授業交流</p> <p>④授業研究を通じた仮説の検証</p> <p>⑤1年次研究の成果の分析、まとめ</p> <p>⑥次年度の方向を検討</p> <p style="text-align: center;"><共有化></p>	<p>①〈研究仮説1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の工夫 ・少人数、習熟度、II指導の工夫 <p>②〈研究仮説2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人思考の習慣化 ・集団解決場面の工夫 ・板書の工夫とノート指導 <p>③〈研究仮説3〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟定着時間の確保と問題の工夫 ・レディネステストと事後テストとの比較・検討 <p>④研究内容に準じた「問題の工夫、個人思考の習慣づけ、集団解決場面の工夫、板書、確実な習熟定着の時間の確保」を組み入れた授業研の実施。</p> <p>⑤ブロック研修(低中高)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討 ・日常の授業における板書(写真)記録による交流 	<p>①複数の教科書を使っでの問題の検討</p> <p>②仮説に関わる手立ての検討</p> <p>③①②を考慮した実践研究</p>  <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">5年「三角形と四角形の角」問題作り</p>	
225 年次年度 へ本年度	<p>①昨年度の課題解決に向けた取組</p> <p>②授業研究（指導案検討、指導法など）を通じた仮説の検証</p> <p>③授業交流</p> <p>④授業研究を通じた仮説の検証</p> <p>⑤2年次研究の成果の分析、まとめ</p> <p>⑥次年度の方向を検討</p> <p style="text-align: center;"><浸透化></p>		<p>④研究内容に準じた「問題の工夫、個人思考の習慣づけ、集団解決場面の工夫、板書、確実な習熟定着の時間の確保」を組み入れた授業研の実施。</p> <p>⑤ブロック研修(低中高)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討 ・日常の授業における板書(写真)記録による交流 	 <p>5年「体積」</p>
326 年次年度	<p>①昨年度の課題解決に向けた取組</p> <p>②授業研究（指導案検討、指導法など）を通じた仮説の検証</p> <p>③3年次研究の成果の分析、まとめ</p> <p>④次年度からの研究の検討</p> <p style="text-align: center;"><標準化></p>		 <p>2年「長さ」</p>	
日常の実践に直結し、授業に生かせる研究		教師の授業力の向上		

3. 名寄西小学校

【研究主題の設定】		確かな学力を身につけ すすんで学び 表現することのできる子どもの育成 ～算数科での基礎・基本の定着を図り、思考力を高める授業の創造をめざして～	
【設定理由】 平成21年度までの研究により、国語科での学力定着など一定の成果が見られたが、算数科での学力定着は不十分であることが明らかになった。そこで、算数科に対する児童の学習意欲の向上や指導者側の指導技術の向上など、算数科での指導改善・工夫が急務となった。			
【成果】 ・国語科において、表現力や読解力など学力向上が図られた。			
【課題】 ・過去数年の本校児童の学力検査の分析では算数科の学力が期待値に達していないことから、22年度より算数科を窓口として主題を設定し、その到達に向けて研究を進めることとした。			
仮説	【仮説1】 導入や展開、終末において、指導計画の工夫や手立てを講じることにより、基礎・基本を身につけることができるであろう。 【仮説2】 自力解決の場において、算数的活動を通して、一人一人が考えをもち、それを練り合うことで、思考力が高まるであろう。 【仮説3】 交流の場を工夫し、互いの良さを認め合い、積極的に他者と関わることで、表現力が高まるであろう。		
年次計画	研究の進め方	研究内容	昨年度の実践例
122 年次 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい研究の初年度にあたり、どのような研究をめざすかの共通理解を図る。 ○一人一授業を公開することで授業力の向上を図る。 ○研究の課題を明確にし、次年度で以降の研究の方向性を探る。 	1) 指導計画の工夫 ①単元全体の指導計画の工夫 ②1時間の指導計画の工夫 2) 学習習慣の定着 ①反復プリントの工夫 ②朝学習・家庭学習の工夫 ③「算数コーナー」の設置	1) 発問の工夫について ①思考力を促す発問の工夫 思考力を広げたり深めたりする発問に焦点をあて、それを主発問とする。その発問をどこで投げかけるかを考え指導案を立てる。発問の精選や吟味を行うことで、本時の活動が明確になる。
223 年次 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時で身に付けさせたい、基礎的・基本的な事項を明らかにして指導計画を立案。 ○指導案は4段階として、終末の段階に、定着のための練習問題を取り組む時間を確保し、学習内容の定着に努める。 	1) 指導過程の工夫 ①実態調査(事前テスト・質問紙等) ②単元の指導計画や毎時の授業展開の工夫 2) 定着を図る工夫 ①定着問題や反復学習の工夫 ②T Tとの連携	2) 一人学習(自力解決)の工夫 ①算数的活動の工夫 算数的活動を取り入れることで、児童が主体的に授業に臨むことができるとともに、楽しさやわかりやすさを実感でき、認められる喜びや新たな方法や考えの発見などを感動を得ることができた。
324 年次 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○自力解決できるよう、発問の工夫や思考時間の確保および効果的な算数的活動を取り入れる。 ○思考力の向上を目指し、自分の考えと他者の考えと比較するなど交流の場を設定する。 	1) 発問の工夫 ①思考力を促す発問の工夫 ②一人学習の工夫 ①考えをもったり説明したりできる算数的活動の工夫 ②ノート指導とその活用 3) 少人数指導の工夫 ①効果的なT T活用について	 (中学年算数の場面)
425 年次 年度 へ本年度	<ul style="list-style-type: none"> ○全教科で培ってきた表現力を生かし、小集団および全体での交流において、相手を意識して説明する力を高めていく。 ○思考の流れ、学習の跡がわかるノートづくりを行う。 ○ねらいを明確にした自己評価や相互評価を行い、学習状況を把握し、授業改善を行う。 	1) 交流の場の工夫 ①少人数交流 ②全体交流 ③T Tとの連携 2) 学習を振り返る場の工夫 ①自己評価の工夫 ②相互評価の工夫 ③T Tとの連携	3) 少人数指導の工夫 ①効果的なT T活用について 2～3名体制での指導が可能となり、躓きの見られる児童への支援や発展的内容に取り組む児童の支援を行うことで、学力定着や向上を図ることができた。

4. 名寄東小学校

【研究主題の設定】		「言葉」を研ぎ、伝え合う力を育てる指導の在り方 ～国語科を窓口として、ICTを効果的に活用し、言語活動の充実を図り、 生きて働く思考力・判断力・表現力の育成を目指して～	
【設定理由】		本校では、昨年度まで「言語活動の充実」による思考力・判断力・表現力の育成に焦点を当て、取り組みを進めてきた。 <成果> ○単元の指導計画に「思考の場」と「交流の場」を位置づけ、その時間を確保することで思考力・判断力・表現力の向上を図ることができた。 <課題> ▲「思考の場」と「交流の場」を活性化させるために、より具体的な方法を模索する必要がある。 以上の成果と課題をふまえ、ICTを効果的に活用することで、言語活動の充実を図り、児童に思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための指導方法を明らかにする研修を進めることとした。	
仮説	ICTを活用し、言語活動の充実を図ることで、児童の思考力・判断力・表現力をより効果的に育むことができるであろう ①思考力・判断力を育成するためのICTの活用の仕方 ②表現力を育成するためのICTの活用の仕方		
年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1・2 年次 23 ・ 24 年度	①研究主題・仮説の設定 ②提案授業等を通して研究内容のイメージを共有化 ③授業交流 ④授業研究を通じた仮説の検証 ⑤1年次・2年次の成果と課題の分析・まとめ ⑥次年度の方角を検討	育成すべき国語能力の明確化・具体化を 図る指導課程の構築 〈「思考の場」・「交流の場」の設定〉 ・個人思考の時間と集団思考の時間の確保 ・児童の思考を促す板書、既習事項をふり返る掲示物、視聴覚機器などの活用工夫 ・「目標-課題-学習活動-まとめ」に一貫性があるかの検討 ・指導事項と言語活動の内容 ・設定場面が適切であるかの検討	☆24年度までの実践例☆ (H23 6年生 パネルディスカッションをしよう)  自作のメモをもとにディスカッションに参加する児童
3 年次 25 年度	①研究主題・仮説の修正 ②ICT活用の実技研修 ③授業研究（指導案検討、指導法など）を通じた仮説の検証 ④次年度の方角を検討	児童の思考力・判断力・表現力の育成を図るために、 効果的にICTを活用した指導課程の構築 (研究仮説1) ○思考力・判断力を育成するためのICTの活用の仕方 ～「思考の場」を活性化させるためのICT活用～ ・課題を明確につかませるための方法として ・わかりやすく説明したり、児童の思考や理解を深めたりするための方法として	(H24 3年生 おにたのぼうし) 
4 年次 26 年度	①昨年度の課題解決に向けた取り組み ②授業研究（指導案検討、指導法など）を通じた仮説の検証 ③4年次研究の成果の分析・まとめ ④次年度の方角を検討	(研究仮説2) ○表現力を育成するためのICTの活用の仕方 ～「交流の場」を活性化させるためのICT活用～ ・考えをまとめたり、調べたことを表や図にまとめたりする。 ・わかりやすく発表したり、表現したりする。	模造紙板書をもとに自分の考えを発表する児童 (H24 6年生 俳句・短歌を作ろう)  映像を見て俳句の推敲を考える児童

5. 豊西小学校

【研究主題の設定】

意欲的に学び、確かな学力を身に付ける子どもの育成

～算数科における、活用力を高める指導の充実を通して～

【設定理由】

本校では、平成23年度まで2年計画で「わかる喜びやできる楽しさを感じる子どもの育成」を主題とし、算数科における、個に応じた指導の充実を中心に取り組んできた。

＜成果＞○基礎・基本を重視した学習の展開を図ることで、基本的な学習内容の定着につなげることができた。

○ノート指導については、全体的に素早くきれいに書けるようになってきた。

＜課題＞▲1クラスの数が多いことから、教師同士の綿密な打ち合わせが必要となる。

▲基礎・基本の定着には一定の成果があったと考えるが、習得したものを活用する面が課題である。

以上の成果と課題をふまえ、昨年度より2年計画で、算数科を窓口にして研究を進めることにした。日常の授業から基礎的・基本的な知識や技能の習得と、既習事項の活用を意識して取り組んでいく。

仮説

①単元構成や一単位時間の指導過程を工夫したり、複数の指導者の役割を明確に位置づけたりすることにより、基礎的・基本的な知識や技能が定着し、意欲をもって学習する子どもが育つであろう。

②効果的な指導方法を研究し、学び方を定着させ、言語活動を充実させることにより、課題解決に必要な活用力が高まり、確かな学力を身に付ける子どもが育つであろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 24 年次 年度	<ul style="list-style-type: none"> ①研究主題・仮説の設定 ②身につけさせたい活用力の具体化と共有化 ③研究授業（全学級） ④1年次の研究の成果と課題の分析・まとめ ⑤フロンティアサポートでの理論研修 ⑥次年度の研究内容の重点を検討 	<p>〈基礎的・基本的な知識や技能の定着させるための指導計画の工夫〉 (研究仮説1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①反復学習 ②指導者の役割の位置づけ (I・I, 学習支援員) ③算数のよさを実感する教材教具・学習環境の整備や工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ①活用力を意識した指導案づくり ②仮説に関わる手立ての検討 ③①②を考慮した提案授業 (研究部) 「4年わり算の筆算(1)」
2 25 年次 年度	<ul style="list-style-type: none"> ①2年次の研究内容の重点の検討 ②指導案検討 ③研究授業 ④2年次研究の成果と課題の分析 ⑤研究のまとめ ⑥次年度からの研究の方向性決定 	<p>〈活用力を高めるための指導計画の工夫〉 (仮説2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①課題解決のための思考力・判断力・表現力を意識したノートづくり ②自力解決・学び合いなどの学び方の定着 ③既習事項の活用を意識させる発問づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ④ブロック研修 ブロック内での授業の検討をし深め合う。 ⑤研究だよりの発行 研究に関連した理論の紹介と研究内容の共通理解を図る。 ⑥算数コーナーの設置 (意欲づけ、図形への興味・関心を高める。)

6. 智恵文小学校

【研究主題の設定】

「考える楽しさ」「わかる喜び」を実感し、基礎基本を身につけた子どもの育成
～子どもが主体的に取り組む算数科の授業を通して～

【設定理由】 研修を進める中で児童の実態を見ていくと基礎基本の定着にばらつきがわかってきた。学力テストの結果からも、特に算数科における弱さが見られた。そこで、研究主題を『「考える楽しさ」「わかる喜び」を実感し、基礎基本を身につけた子どもの育成』とし算数科を窓口にして、子どもたちが「考える楽しさ」を感じ「できる自信」を養っていくことで主体的に活動し、基礎的・基本的な知識・技能を習得させることをねらう。

<成果>

レディネステストなどを分析することで児童の実態をしっかりと把握することができた。また、「問題・課題・予想・考え・まとめ」という一貫した流れにそって授業を進めることで、児童が見通しを持って、自力解決に向け意欲的に授業に参加することができた。

<課題>

児童にとって必要な基礎学力は何かを早急に把握し定着に向け一年を通した計画が必要である。また、自力解決の時間をしっかりと確保し取り組んでいく。さらに、共通して取り組んでいく内容は学校全体でしっかりと確認し、学年が変わっても指導が継続的に進められるようにしていく必要がある。

仮説

仮説1 課題追求の段階において、算数的な活動を工夫し、主体的に追求させ自力解決させることで「考える楽しさ」を実感させることができるだろう。

仮説2 まとめ段階において、考えを交流する場面を設定し、定着を図る練習問題をさせることにより「できる自信」を実感させることができるだろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 2 年次 4 年度	1) 研究主題、研究仮説、研究内容の設定 2) 研究計画の設定 3) 授業実践による仮説の検証 (「数と計算」を中心に) 【具体的な内容】 ・主体的な追及の工夫 ・指導計画の工夫 4) 成果と課題の整理	【仮説1にかかわって】 ①主体的な追求の工夫 ・課題提示の工夫 ・課題解決の見通しをもたせる工夫 ・個に応じた支援の工夫 ②指導計画の工夫 ・実態把握 ・指導案への位置づけ	①一人1回の公開授業 ②公開授業事前指導案検討 ③授業の流れの全学年の統一(問題・課題・予想・考え・まとめ) ④単元ごとにレディネステストの分析による児童の実態の把握
2 年次 5 年度	1) 研究計画の修正と付加 2) 授業実践による仮説の検証 ※領域の設定はしない 【具体的な内容】 ・児童の実態に応じた算数的活動の工夫 ・まとめの段階における交流の工夫 4) 成果と課題の整理	【仮説1にかかわって】 ①算数的活動の工夫 ・具体物の操作 ・教材の工夫 ・思考の図式化 【仮説2にかかわって】 ②まとめの段階における交流の工夫 ・板書の工夫 ・学年に応じたノート指導 ・定着を計る交流場面の設定	
3 年次 6 年度	1) 研究計画の修正と付加 2) 授業実践による仮説の検証 【具体的な内容】 ※2年次の課題に応じて内容を整理していく 4) 研究全体のまとめ 5) 研究の方向性の確認		

7. 東風連小学校

【研究主題の設定】

自分の思いや考えを的確に表現できる子どもの育成
～国語科の「書く」活動を通して～

【設定理由】

本校では、平成21年度から平成23年度まで、「わくわく いきいき ぐんぐん～一人一人の思いを豊かに表現しあう授業づくりを目指して～」を研究主題とし、国語科を窓口の研究を進めてきた。

＜成果＞○言語によるコミュニケーションをとる場面が、多く見られるようになった。

＜課題＞▲表現の一つである「書く」活動において、時間がかかりすぎる。

▲書く内容が、発達段階に比べて稚拙である。

以上の成果と課題、児童の実態をふまえ、書くことを通して自分の思いや考えを表現し、より思考を深めながら学習を進めることのできる児童を育成することをねらいとし、研修に取り組んでいる。

仮説

- ①指導計画に、思いや考えを書く活動を適切に設定することで、児童は意欲的に表現活動に取り組むことができるであろう。
- ②書く技能の向上を目指して書き方を指導することで、児童は自分の思いや考えを的確に表現することができるであろう。
- ③学習活動を振り返る時間を設定することで、児童自身が自己の学びを確かめ、次の学習に生かすことができるであろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	昨年度・今年度の実践例
1 24 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①研究主題・仮説の設定 ②提案授業などを通しての、研究内容のイメージを共有化 ③授業交流 ④公開授業（名寄市へき地・複式研究大会） ⑤仮説の検証 ⑥研究の成果と課題、まとめ ⑦次年度の方向性を検討 	<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書く活動を位置づけた単元指導計画の立案 ②指導方法・学習過程の工夫 <p>実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書く技能の定着 ②書く経験の蓄積 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学びを高める自己評価 ②個に応じた指導と評価の工夫 	<p>＜計画＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の個別指導・支援 ○同時間接を取り入れた学習過程の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・同時間接指導を行う。学級全体を見ながら個に応じた指導を行うことができる。書く活動において、きめ細やかな指導をすることができる。 ・実態に応じ、必要と考えられる支援の内容を記述し指導に生かす。
2 25 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年度の課題解決に向けた取組 ②授業研究（指導法など）を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析・まとめ ④次年度の方向性を検討 	<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書く活動を位置づけた単元指導計画の立案 ②指導方法・学習過程の工夫 <p>実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書く技能の定着 ②書く経験の蓄積 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学びを高める自己評価 ②個に応じた指導と評価の工夫 	<p>○児童の個別指導・支援</p> <p>○同時間接を取り入れた学習過程の工夫</p> <p>・同時間接指導を行う。学級全体を見ながら個に応じた指導を行うことができる。書く活動において、きめ細やかな指導をすることができる。</p> <p>・実態に応じ、必要と考えられる支援の内容を記述し指導に生かす。</p>
3 26 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年度の課題解決に向けた取組 ②授業研究（指導法など）を通じた仮説の検証 ③3年次研究の成果の分析・まとめ ④本研究のまとめと次年度の研究の方向性 	<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書く活動を位置づけた単元指導計画の立案 ②指導方法・学習過程の工夫 <p>実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書く技能の定着 ②書く経験の蓄積 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学びを高める自己評価 ②個に応じた指導と評価の工夫 	<p>＜実践＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流・推敲を通じた、書く技能の向上 ○書く経験の蓄積 <ul style="list-style-type: none"> ・創作文・報告文・俳句や短歌など、国語科で取り組む「書く」活動では、交流・推敲を通して表現の技能を高める。 <p>＜評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導 ○異学年との交流・評価 <p>☆このほか、毎週金曜日に行っている100マス作文、行事ごとの地域への招待状など、書く活動を随時取り入れている。</p>



8. 中名寄小学校

【研究主題の設定】

互いの考えを尊重し、学び合う児童
～それぞれの考えを交流し、学び合う子どもの育成を目指して～

【設定理由】

本校では、平成22・23年度研究主題「自分の思いや考えを豊かに表現できる児童の育成」の成果と課題を受け、昨年度から2年次計画で上記研究主題に全職員で取り組んできた。

<成果>

繰り返し学習は子どもたちが意欲的に取り組むことができ、学習内容の定着にもつなげることができた。また、学習過程を整理することで問題解決的な学習の展開を全員が取り入れることができるようになった。




<課題>

話し合いの場を設定することはできたが、子どもたちが話し合いによって考えを深めることができなかった。その原因として話し合いの技術が身につけていないことが考えられる。また、個々の能力差に応じた問題や課題の設定についても考えていく必要がある。

以上の成果と課題を踏まえ、複式学級における問題解決的な学習を基盤とした授業改善と指導力の向上を図り、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付け、互いの考えを尊重し、学び合う児童を目指して校内研修を推進する。

仮説

- ①課題を明確にし、問題や教材、板書等を工夫することにより、課題意識をもち、進んで解決に取り組む子どもを育てることができよう。
- ②話し合いや発表場面を設定し、直接及び間接指導時の学び方や単元構成を工夫することにより、自分の考えをもち、互いに伝え合い、考えを深める子どもを育てることができよう。
- ③基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させ、思考力や判断力を活用する授業を展開することにより、言語活動の充実を図ることができよう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1・24 年次 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習の学習課程の明確化と共通理解 ○互いに伝え合い、考えを深め合う交流場面や発表場面の設定 ○繰り返し学習(パワーアップ学習)の定着 	<p>〈研究仮説1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習過程の明確化 ○主体的な学習を促す問題や教材の工夫 	<p>①一人1回以上の研究授業</p>  <p>②朝学習の時間を利用した算数の繰り返し学習による基礎基本の定着</p> 
2 年次 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学習を促す問題や教材、板書の工夫 ○主体的な学習を促す算数的活動の位置付け ○取組の成果と課題の分析 	<p>〈研究仮説2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いに伝え合い、考えを深め合う交流場面や発表場面の設定 ○直接・間接指導の工夫 ○主体的な学習を促す算数的活動の位置付け <p>〈研究仮説3〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的学習内容の定着を図る繰り返し学習の設定 ○個に応じた問題による学力の定着 ○言語活動の充実 	<p>③問題解決的な学習を行うための学習過程の整理</p> 

9. 風連下多寄小学校

【研究主題の設定】

自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成
～『書く活動』を通して～

【設定理由】

本校では、平成21年度から平成23年度にかけて「自分の考えを表現し、追求する児童の育成～論理的な思考を導く算数的活動を通して～」を研究主題とし、算数を窓口に研究を進めてきた。

<成果>○話し合いの方の方を掲示したり、話し合い活動の場を意図的に設定することにより、活発な話し合い活動ができるようになってきた。

○「問題から課題を考え、予想後に自己解決し、練り合ったのちにまとめる。」という一連の学習過程を把握することにより、見通しを持って学習に取り組む声尾ができた。

○考え方の前時と違う個所に焦点を当てることにより、やらされているのではなく、自ら学ぼうとする態度が見られていた。

<課題>▲自分の思いや考えを、的確な言葉を用いて「書く」という力に課題を抱えている児童が多い。

以上の成果と課題、児童の実態をふまえ、今年度は国語科の「書くこと」を窓口に研修を進めることとした。

仮説

①日常的に言葉に触れる機会や書く活動を意図的に設定することにより、書くことのよさや楽しさを実感することができるであろう。

②身につけさせたい力を明確にした単元づくりや、発達段階に応じた指導を工夫することにより、書く力を向上させることができるであろう。

③学習活動の振り返りや作品の交流場面を設定する事により、自己の学びを確かめ、次の学習に進んで生かそうとすることができるであろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 24 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ◎研究内容検討 ①研究主題・仮説の設定 ②児童の実態把握 ③指導案の書き方を共有 ④授業交流を通して研究内容のイメージ共有化 ⑤実践検証（仮説の検証） ⑥1年次の研究成果の分析・まとめ ⑦次年度の方向を検討 	<p>言語環境の充実</p> <p>〈研究仮説1〉 ア書く活動の日常的な取組 ・毎週、全校児童で実施。 ・チャレンジタイムの充実。 イ環境の整備 ・児童の作品の展示スペース設置。 ウ言語活動の充実 ・読書マラソンの実施。</p>	<p>①毎週木曜日に全校児童で書く活動を行うチャレンジタイムを導入。</p>  <p>②読書マラソン（ブックウォーク）の実施。 ・全児童の読書の内容を把握。</p>
2 25 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ◎実践研究の蓄積と検証 ①児童の実態を踏まえ、研究仮説・内容を修正 ②研究内容改善・充実 ③研究授業を通じた仮説の検証 ④研究の成果と課題のまとめ・分析 ⑤次年度の方向を検討 	<p>基礎・基本の定着</p> <p>〈研究仮説2〉 ア単元における『身につけさせたい』の明確化 イ単元構成の工夫 ・単元構成の見直し。 ウ指導法・学習過程の工夫 ・指導案の書き方の再検討。</p>	 <p>③単元構成を見直し、『単元を貫く言語活動』の一覧表作成。 ・児童作品の交流場面の設定。</p>
3 26 年 年 次 度	<ul style="list-style-type: none"> ◎実践研究の検証と発展 ①研究仮説修正 ②研究内容改善・充実 ③実践検証 ④研究の成果とまとめ ⑤次年度の研究主題の設定 	<p>「書くこと」への意欲向上</p> <p>〈研究仮説3〉 ア『単元を貫く言語活動』の一覧表作成（交流場面の設定） ・「書くこと」における学習計画表作成。 イ自己評価・相互評価の工夫</p>	<p>④複式授業における指導案の書き方の見直し。</p> <p>⑤全校児童による相互評価の場面を設定。</p>

10. 風連中央小学校

自ら考え、確かな学力を身に付ける子の育成 ～算数の楽しさを実感する授業～

【設定理由】本校では、一昨年まで「進んで思いを伝え合う子の育成」を研究主題とし、国語科の「話すこと・聞くこと」を軸として取り組んできた。

＜成果＞○国語科において話し手は自分の思いや考えを話したり、聞き手の聞く意識が高まったりするなどの成果が見られた。

▲国語科で培った伝え合いの力を他教科・他領域で発展させていくことが必要。

＜実態＞▲算数科において、「四則計算等の定着が不十分」、「考える力が不足している」などの課題がある。

以上の成果と課題、児童の実態をふまえ、算数科を窓口に子どもの「基礎・基本の定着」、「考える力の育成」を図る研修を進めることとした。

仮説 ①導入場面における課題設定・把握の工夫、問題解決的な学習の充実を図ることで、自ら考えさせることができるであろう。
②終末の場面において定着問題に取り組むことにより、基礎・基本を身に付けさせることができるであろう。
③評価活動を充実させることにより、算数の楽しさを実感し、意欲を高めさせることができるであろう。

年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 年次 2 4 年度	<ul style="list-style-type: none"> ①研究主題・仮説の設定 ②提案授業等を通して研究内容のイメージを共有化 ③授業交流 ④授業研究を通じた仮説の検証 ⑤1年次研究の成果と課題の分析、まとめ ⑥次年度の方向を検討 	〈研究仮説1〉 ○学習過程の確立 ・確実にたしかめ問題を行う授業 ・単元のねらいを明確化 ○個に応じた指導の工夫 ・お助けコーナーの設置 基礎・基本の定着	①ノート活用 ノートは考え方や学習の記録になる。どんな学習をしたかがわかるようなノートを目指したいと考える。 ◇ノートを書くうえで気を付けさせたいこと ・日付、学習のページ、番号などを書く。 ・正しい数字を書く(きれいに)。 ・位をそろえて書く。 ・筆算は残す。 ・自分の考えを消さない。 ・空いているからといって、前のページに書かない。 ②評価活動(児童)の充実
2 年次 2 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> ①1年次の課題解決に向けた取組 ②授業研究(指導案検討、指導法など)を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度の方向を検討 	(研究仮説2) ○問題解決的な学習の充実 ・課題設定の工夫 ・ノートの活用 ○多様な算数的活動の工夫 ・学習形態の工夫 考える力を育てる	②評価活動(児童)の充実 方法としては、ノートに書いた課題の右隅に、課題に対して自分の学習がどうだったかを◎(パッチリ)、○(だいたいO.K.), △(少し自信がない), ×(全然自信がない)の4種類で書かせる。その後、挙手により教師が学習状況を把握する。この自己評価は「意欲」につなげていきたいと考えている。△や×の児童には、個別での声かけが必要な場合もあると思われる。
3 年次 2 6 年度	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年度の課題解決に向けた取組 ②授業研究(指導案検討、指導法など)を通じた仮説の検証 ③3年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度からの研究の検討 	(研究仮説3) ○考えを交流する学習活動の工夫 ・交流の場面と方法 ・個の学びを確かにする評価活動の工夫 考える力を高める	方法としては、ノートに書いた課題の右隅に、課題に対して自分の学習がどうだったかを◎(パッチリ)、○(だいたいO.K.), △(少し自信がない), ×(全然自信がない)の4種類で書かせる。その後、挙手により教師が学習状況を把握する。この自己評価は「意欲」につなげていきたいと考えている。△や×の児童には、個別での声かけが必要な場合もあると思われる。

この他、習熟度別学習(G学習)や週2回の朝活タイムを行い基礎・基本の定着を図っている。

【朝活タイム】…朝の会までの15分間、全校で計算領域の問題に取り組む。「さくらんぼ算」「分数までのステップ」など、30種類×20枚プリントから順に自分のペースで取り組む。

1.1. 名寄中学校

【研究主題の設定】		生徒の表現力を高める活動 ～言語活動の充実を通して～	
<p>【設定理由】 本校では、平成23年度から「生徒の表現力を高める活動」について言語活動の充実を通して、授業改善や特別活動を工夫しながら、取り組んできている。今年度は3年目となっている。</p> <p><成果>○授業の工夫改善を行い、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能とは何かを明らかにすることができた。 ○各教科や道徳・特別活動で、生徒が表現力を高める場を設定することができた。 ○生徒が表現する環境を整えるためにも、コミュニケーションスキルを高める活動を工夫することができた。</p> <p><課題>○基礎的・基本的な知識・技能の定着のさらなる定着をはかることで、より言語活動が充実し、生徒の表現力が高まると考え、取り組んでいる。</p>			
仮説	<p>①各教科の学習において、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習活動を工夫することにより、基礎的・基本的な知識・技能を用いて、意欲をもって学習に取り組む生徒になるだろう。</p> <p>②各教科等の学習において、考える場面を設定し、根拠をあげて意見を言ったり、書いたりする学習活動を工夫することにより、基礎的・基本的な知識・技能を用いてよく考え・自分の思いを的確に表現できる生徒になるだろう。</p> <p>③全教育活動において、人とのかかわり方を学び、自分の考えや思いを的確に伝え合う活動を工夫することにより、互いに思いやり、高めあう、人間性豊かな生徒になるだろう。</p>		
年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 23 年次 年度	①研究主題・仮説・内容の設定 ②アンケートの実施 ③他校・文献による実践の紹介 ④実践の場の検討 ⑤研究成果の分析・まとめ ⑥次年度の方向を検討	全教育活動に関わって、生徒が向上する研究	①学習部を中心とした学習に関する取組を行う。年度初めの教科ごとのシラバス、漢字・英単語コンクール、新入生の春休みの課題など。 ②生徒に対する意識アンケートを行う。 ③各授業の中で授業の始めに「授業の目標や授業内容を確認して見通しを持たせる」取組を行う。授業の終わりに「板書・テスト・発表などを通して授業内容の確認を行う」取組を行う。 ④各教科ごとに、言語活動を通じた表現力の向上のための場を設定し、具体的な方策を考えて取組を行う。 ⑤行事・学級活動などにおいてリーダーを中心とした活動の取組を行う。 ⑥学級・学年・部活動などでコミュニケーションを高める活動を行う。
2 24 年次 年度	①昨年度の課題解決にむけた取組 ②授業研究を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析・まとめ ④次年度の方向を検討		①学習に関するアンケートを年に数回行って分析し、指導に役立てる。 ②教科・道徳・学活の授業研究を通じた仮説の検証をする。 ③各教科の仮説に関する実践を交流する。 ④3年間の成果と課題をまとめる。
3 25 年次 年度	①主題などの再検討 ②授業研究などを通じた仮説の検証 ③3年次研究成果の分析・まとめ ④次年度の方向を検討		

1.2. 名寄東中学校

【研究主題の設定】		伝え合う力を育成する学習指導の改善 ～自分の考えや思いを適切に表現する言語活動の工夫を通して～	
【設定理由】 本校では、平成24年度から「伝え合う力」の育成を図る研修を進めてきている。 〈成果〉○基礎的・基本的な知識・技能を定着させることができた。 ○教科の特性を生かした言語活動を工夫することができた。 ▲「伝え合う力」を明確化し、全体で共通理解を図ることが不十分であった。 以上の成果と課題をふまえ、今年度は育てたい生徒像を具体化し、「伝え合う力」を明確に定義づけすることで共通理解を図り、研修を進めていきたい。また、3年次計画の2年目として、「相手や目的・意図・多様な場面において、自分の考えや思いを適切に表現する力」を育成することに焦点をあて、研修を進めていく。			
仮説 自分の考えや思いを相手に伝えたいという気持ち（意欲）・必要感をもたせる指導や、相手意識や目的意識などを明確化し、相手に自分の考えや思いを適切に表現する指導などを工夫することで、主体的に自分の考えや思いを伝えようとする生徒の育成が図れるだろう。			
年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 24 年次 年度	①研究主題・仮説の設定 ②アンケート実施 ③アンケート結果交流を通しての、研究内容イメージ共有化 ④一人一回の公開授業。そのための指導案検討と事後研修 ⑤仮説の検証 ⑥研究の成果の分析、まとめ ⑦次年度の方向を検討	①伝え合う力を育成する学習指導の工夫 <目指す生徒像> ①基礎的・基本的な知識・技能を活かし、主体的に自分の考えや思いを伝えようとする生徒 ②互いに考えや思いを伝え合うことで、より良い集団・人間関係を構築することができる生徒 <今年度の研究の重点> 相手や目的・意図・多様な場面において、自分の考えや思いを適切に表現する力を育成する言語活動の工夫	①一人一回の公開授業 ②公開授業事前指導案検討 ③公開授業事後研修 ④研究内容に準じた「自分の考えや思いを適切に表現する言語活動の工夫」を組み入れた研究授業の実施
2 25 年次 年度	①昨年度の課題解決に向けた取り組み ②授業研究を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度の方向を検討	①伝え合う力を育成する学習指導の改善 ①自分の考えや思いを相手に伝えたいという気持ち（意欲）や必要感が前提になる。 ②誰に（相手意識）・どんな目的で（目的意識）・いつ、どのような状況で（場面意識）・どのような手段で（方法意識）伝えるのかを明確にする。 ③自分の考えや思いを相手はどのように受けとめるのか、相手の気持ちや立場に立って考える（相手理解）。	
3 26 年次 年度	①昨年度の課題解決に向けた取り組み ②授業研究を通じた仮説の検証 ③2年次研究の成果の分析、まとめ ④次年度の方向を検討	①伝え合う力を育成する学習指導の充実 ①～③のことを意識しながら、自分の考えや思いを適切に表現する言語活動を工夫することで、「伝え合う力」の育成を図る。	

1.3. 智恵文中学校

<p>【研究主題の設定】</p> <p style="text-align: center;">確かな学力を身につけ、意欲的に学習に取り組む生徒の育成 ～各教科等における言語活動の充実を通して～</p>			
<p>【設定理由】</p> <p>基礎的・基本的知識や技能が十分に定着していない現状を踏まえ、しっかりとした土台を作り上げた上で、活用力をはぐくむ必要があると考えた。その中で、各教科等での言語活動を軸とした指導方法を充実させながら、生徒一人ひとりが自らの学びを深め、確かな学力を身につけるために、どのような言語活動が効果的であるかについて研究を深化させることをねらいとして設定した。</p> <p><成果>・意識的に言語活動の場を設定し、継続することによって、既習事項や専門用語を用いた文章での説明、話し合い活動の活発化がみられた。</p> <p><課題>・「教える」と「考えさせる」を効果的に関連づけていく必要がある。</p> <p>・言語活動の充実をはかる場面は明確となっているが、どのような言語活動がよいか不明確になってしまっていた。</p> <p>以上をふまえ、年間を通して「教えて考えさせる授業」の効果的な指導計画を立てるとともに、言語活動の取り入れ方を工夫し、学習内容の定着をはかる。また、自己評価シートを工夫し、生徒のメタ認知能力を高めていく研修を、3年次目に進めることとした。</p>			
<p>仮説</p> <p>説明、討議・討論を取り入れた言語活動の充実を図り、「習得・活用」を意識した学習過程の工夫をすることで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力、判断力、表現力等の育成がはかれるであろう。</p>			
年次計画	研究の進め方	研究内容	H24年度の実践例
1 23 年次 年度	<p>① 研究主題・仮説の設定</p> <p>② 授業交流</p> <p>③ 授業研究を通じた仮説の検証</p> <p>④ 研究の成果と課題の分析、まとめ</p> <p>⑤ 次年度の方向性を検討</p>	<p>～研究の視点～</p> <p>1. 言語活動を用いた授業づくりに向けて</p> <p>①単元の模索</p> <p>②指導計画への明記</p> <p>2. 「教える」段階での丁寧でわかりやすい指導の工夫</p> <p>①学習課程の構築～「教えて考えさせる授業」づくり</p>	<p>①言語活動の充実に向けた、各教科における言語活動のねらいと具体例のレポート作成・交流</p> <p>②部会ごと（文系教科と理系教科）の指導案検討</p> <p>③「教えて考えさせる授業」の「考えさせる」に重点をおいた1人1授業の指導案作成と授業公開</p> <p>【理科：実験結果から事象を説明する授業】</p>
2 24 年次 年度	<p>① 2年次の課題解決に向けた取り組み</p> <p>② 授業交流（1人1授業）</p> <p>③ 授業研究を通じた仮説の検証</p> <p>④ 研究の成果と課題の分析、まとめ</p> <p>⑤ 次年度の方向性を検討</p>	<p>～研究の視点～</p> <p>1. 言語活動を効果的に用いた授業づくりに向けて</p> <p>①各教科における言語活動のねらいと言語活動例の具体化</p> <p>2. 考えさせるための課題作りや指導の工夫</p> <p>①学習ポイントを明確に意識できる課題作りの工夫</p> <p>②先行学習における各教科間の相互交流</p> <p>③自己評価シートの工夫</p>	<p>【数学：方程式の能率的な解き方を考える授業】</p>
3 25 年次 年度	<p>① 1～2年次の課題解決に向けた取り組み</p> <p>② 授業交流</p> <p>③ 授業研究を通じた仮説の検証</p> <p>④ 研究の成果の分析、まとめ</p> <p>⑤ 次年度の研究の検討</p>	<p>～研究の視点～</p> <p>1. 言語活動を効果的に用いた授業づくりに向けて</p> <p>①各教科における言語活動の精選の工夫</p> <p>2. 自己評価の工夫</p> <p>①メタ認知能力を育成する自己評価の工夫</p>	<p>④「メタ認知能力」育成に向けた自己評価シートの作成と交流</p> <p>⑤授業交流週間の設定</p>

1.4. 風連中学校

<p>【研究主題の設定】</p> <p style="text-align: center;">確かな学力の定着を図る学習指導の工夫 ～学習指導の改善と言語活動の充実を通して～</p>			
<p>【設定理由】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に意欲的に取り組む生徒の育成をめざし、生徒たちは何事もまじめにとりくむ姿勢が見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくり考えることが苦手ですぐあきらめる。文章や資料から必要な知識を読み取ることが苦手 ・学力差が大きく、基礎基本の定着が不十分な生徒が多い。 ・家庭学習の定着（学習意欲）が不十分であり、継続的かつ主体的な学びにつながっていない。 			
<p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る工夫を行えば、確かな学力の育成を図ることができるだろう。 ・各教科において、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫・改善を行えば、確かな学力の育成を図ることができるだろう。 			
年次計画	研究の進め方	研究内容	今年度の実践例
1 24 年次 年度	<p>①研究主題・仮説の設定</p> <p>②授業研究と交流</p> <p>③1年次研究の成果の分析</p> <p>④次年度方向を検討</p>	<p>基礎的・基本的な知識の習得</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能の習得のために></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲の向上および家庭学習の定着につながる授業実践（導入、まとめの工夫など） ○授業構成、課題等の工夫によって学習内容の定着を図る（評価テスト、宿題、脳活、補習の活用） 	<p>○言語活動の工夫の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の単元計画の構成を工夫し、思考力・判断力・表現力を高める言語活動のみの時間を取り入れた単元計画の作成 <p><授業例：数学></p> <p>長文による問題提示</p> <p>①問題文から必要事項を読み取る作業</p>
2 25 年次 年度	<p>①昨年度の課題解決に向けた取組</p> <p>②授業研究と交流（指導案検討、指導法の研究）をとおして仮説を検証</p> <p>③2年次研究の成果と課題の分析、まとめ</p>	<p>思考力・判断力・表現力を高める</p> <p><言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科での言語活動の工夫 ○学活等での言語活動の工夫 ○発問の工夫～伝え合う、考えを発表する場の設定 ○文章を読み取り、筋道をたてて問題に取り組む場の設定 ○集団活動において、話し合いをする形態の工夫 	<p>②読み取った事項をもとに、適切な式を考える作業（今回は連立方程式を活用した問題）</p> 
3 26 年次 年度	<p>①昨年度の課題をうけての取組の改善</p> <p>②授業研究と交流（指導案検討、指導法の研究）をとおして仮説を検証</p> <p>③1～3年次研究の成果の分析とまとめ</p> <p>④次年度計画にむけた研究の検討</p>	<p>思考力・判断力・表現力を高める</p>	<p>③式をもとに答えを導き出す。</p> 